

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進 ～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

中野先生(国語) 十川先生(道徳) 加治先生(道徳) の授業研から

10月7日(火)、2年1組の中野先生、5年2組の十川先生は校内研修として、3年2組の加治先生は初任者研修の一環として授業研修を行いました。

今回の3学級の授業研修もそうなのですが、研修の回を追うごとに子ども達の「学習に向かう姿」の成長が感じられます。校内で一貫した指導が徹底して行われていることは素晴らしいことです。今後も授業研修が他のクラスで予定されています。学校全体が同じ方向を向き指導にあたるよさが、子どもの姿として表れることが楽しみです。

2年1組では、国語の学習で「分かりやすく相手に伝える」ことをねらいとした学習が行われていました。実際の校区の地図を使い、「自分の道案内」をするという低学年にとって「魅力ある題材」となっていました。また、学習プリントも自分にあったものが「自己選択」できるようになっており、学習への主体的な参加を高めるとともに、個の実態に応じた追究が行われるよう工夫されていました。

3年2組では、「個性の伸長」について、「自分の」今までの在り方と常に向き合いながら学習が進められるよう様々な手立てが打たれていました。特に、友達からのたくさんのメッセージが書かれたカードを目にする子ども達の表情はとても嬉しそうで「自己有用感」の高まりを感じることができました。

5年2組では、「自分の考えの立場」を明確にするためにICTの活用が行われていました。自分の立場を明確にすることが、子ども達の学習への主体的な参画を促すとともに、自信をもって自分の考えを発信し、交流する姿につながっていました。



学習への「心がまえ」「身がまえ」「物がまえ」はどの学級でもそろってきています



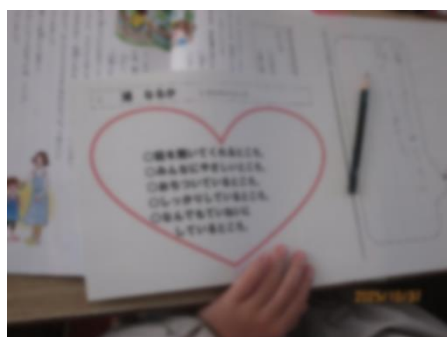
子どもの知的好奇心を引き出す題材の準備



子どもの個追究に応じた「自己選択」



互いの考えを認め合う簿の設定



個々の「自己有用感」を大切にした授業のづくり



「自分の立場」を明確にすることが子ども達の学習への「参画」を促します



意見交流の場の設定が共感的な人間関係構築の大きな手立てです